

アジア主要新興6カ国人材マネジメント 調査概要

最近の人事や人材マネジメントのトレンドは、たとえ国内人事の話題であっても、海外も視野に入れたテーマへと発展してきている。また、海外といっても、これまでのような欧米中心ではなく、昨今では、中国や東南アジア等の新興国に主眼を置いた議論へと変化してきている。

そこで、弊社においては、主として最近脚光を浴びるアジアの主要新興国に進出している日本企業に対する現地でのインタビューを実施し、各国における雇用状況や人材マネジメントの実情、現下における人事・人材マネジメント上の課題につき調査を実施した。

調査対象とした6カ国の国別調査概要をここに掲載するので、参考とされたい。

調査の概要については、以下の通りである。

【調査概要】

1. 実施時期：2013年2月～4月

2. 対象国：アジア主要新興6カ国

- ①ベトナム（坂見信輔）
- ②マレーシア（坂見信輔）
- ③タイ（森下真由）
- ④インド（森下真由）
- ⑤シンガポール（吉田寿）
- ⑥フィリピン（吉田寿）

※（ ）内は、執筆担当

3. インタビュー対象企業および対象者

- ①対象企業：公的機関、金融、商社、製造、建設、人材サービス等、計20社
- ②対象者：当該企業における日本人現地駐在員および人事担当ナショナル・スタッフ（現地採用社員）

4. インタビュー項目

- ①当該国の政治・経済・雇用状況と日本企業の動向
- ②同、労働環境、人事諸制度、社員の就業意識
- ③当該企業の事業内容
- ④同、ナショナル・スタッフ（NS）の人材マネジメント
- ⑤同、本社からの赴任者の人材マネジメント
- ⑥日本企業が抱える人事諸課題と今後の取り組みの方向性 等

※なお、各国別の記載内容については、主として調査時点における基本情報およびインタビューで得られた情報をもとに作成したものであることを、あらかじめお断りしておきたい。

